

2013年3月18日

私たちはTPP交渉への参加に反対します

香川民主医療機関連合会 会長 中田 耕次
香川医療生活協同組合 理事長 藤原 高明
高松平和病院 院長 蓮井 宏樹
高松協同病院 院長 田中 眞治

3月15日、安倍内閣総理大臣はTPP交渉参加の意向を正式に表明しました。国民皆保険制度を守り抜き、いのちとくらしをまもるために、日本がTPP（環太平洋経済連携協定）に参加することに反対する立場を表明します。

国会答弁で安倍首相は「公的医療保険制度はTPP交渉の対象外。国民皆保険を揺るがすことは絶対にない」と述べ、自民党の「TPP交渉参加に関する決議」では国民皆保険と公的薬価制度を守り抜くと表明しています。

しかし、2月23日の日米共同声明では、「全ての物品が交渉の対象とされること」「2011年11月12日にTPP首脳によって表明された『TPPの輪郭（アウトライン）』において示された包括的で高い水準の協定を達成していくことになることを確認する」とされています。

関税についての「聖域」や、日本国内の法律や仕組みが守られる保証は何一つありません。遅れてTPPに参加したカナダやメキシコは、すでに交渉が進んでいる内容について再交渉を求めるのは難しいと通告されています。

新しく交渉に参加する国に対しては、①合意済みの議論は蒸し返さない、②交渉の進展を遅らせない、③包括的で高いレベルの貿易自由化を約束するという条件が課せられます。日本の公的医療保険制度を守ることができるという保証は何一つありません。

TPPは医療の問題だけでなく、農業、食の安全・安心など、国民生活に直結し、国家の主権を揺るがしかねない重大な問題を含んでいます。

TPPは国のかたちを一変させる重大な交渉です。いのちとくらしを守る立場から、私たちは、日本のTPP交渉への参加には絶対に反対の立場を表明します。